

## ミヤマクワガタ

孫たちにせがまれて澄川森林を連れまわしました。2013年、2014年はホタル鑑賞を含めて2度、そして今年2015年で3年連続4度目です。特に小学校入学を来年に控えた男孫は生き物好きの遺伝子を引き継いでくれたようで、澄川の森が大好きなのです。8月15日活動日ではないので、澄川森林を孫たちと独占できました。そしてA1区で出会ったのが大物のミヤマクワガタでした。画像の記録は2015年8月15日11時頃でした。頃としたのは捕まえて昼食のため基地に戻っての撮影時間が11時59分でした。捕獲の瞬間は孫たちが興奮して撮影どころではなかったのです。筆者にしても10年以上も澄川森林を歩きまわっていますが、ミヤマクワガタのみに出会ったのは初めてです。孫たちに対してジイジの株が急上昇したのはいうまでもありません。

ノコギリクワガタは以前に紹介しましたが、ミヤマクワガタはノコギリに一见似てはいますが、頭の出っ張りが大きくてはっきりしていることで紛れることなく区別できます。

思えば九州での昆虫少年時代にもお目にかかったことがない代物なので、恥ずかしながら喜寿も過ぎて初めての实物との出会いでした。昆虫少年にとりましてはカブトムシよりもずっとずっと憧れの昆虫なのです。ネットのYahoo JAPANに値段の情報がありません。78mmの大物では18万円/匹もするとのこと。1mm単位で値段が幾何級数的に下がって65mmではペアでも1,000円となります。計測したわけではありませんが、70mm upと見えましたので、3,000円くらいの代物だったようです。

幼虫はミズナラやコナラの朽木でも腐蝕の進んだ部分を食べて育つようなので、澄川にはこれからも餌だらけになりますので、じゃんじゃん繁殖してください。分布は日本全土の他国後や択捉にも棲むようです。ミヤマ(深山)と頭につく命名のとおり冷涼で湿潤なところを好みますので、九州の平地でしか活動していなかった少年時代には、出会えるはずもありません。エゾ型とサト型とかがあるようで、澄川のは当然エゾ型に違いないと思うのですが、これの出現は地域ではなく、温度に影響されるとのことなので、本州でも冷涼な条件次第でエゾ型が出現するとのこと。

来年も孫たちにリクエストされることが確定しましたが、こいつに出会える保証はありません。

